

【正解】

一ウ

二人間がジャンプしたところを撮ったのに、人間が空中を水平移動しているように撮れた写真が真。

三以来、ジャ

四自信を喪失させ、制作のモチベーションを奪うおそれがあるもの。(三十字)

五コンプレックスがその人の人格の一部、アイデンティティの一部、その人を形作る大切なエッセンスだと感じていること。

六もちろん、くりません。

七こうしたオ

八ウ

【読解のポイント】

一冒頭に「わたしは写真で作品を作っています」とあることから、「わたし」が芸術的な作品を作っている人物だとわかる。どの世界でも言えることだが、とくに、芸術の世界では他人と同じようなことをやっていると、プロとして生きていくのは難しい。そこで「わたし」は、今まで誰もやっていない「浮遊写真」を撮ることを目ざしたのである。きつかけはパートナーの突然のジャンプを撮影した一枚のスナップだった。そこには今まで「わたし」が見たこともない写真があったのである。それ以来、「わたし」は、いかにして「真を写さない」写真を撮るかに没頭しているので、ウが正解。

二「ある日、買い物物の途中で……水平移動しているような写真が撮れていました」（一〇・6〜9）とある。実は彼は単にジャンプをしただけだったのに、「わたし」が撮ったスナップは「人間が空中を水平移動しているように見える写真だったのである。このことに「わたし」は感動し、興奮したのである。一一ページの写真がそれだが、見落としてはならないのは、彼のジャンプが見事だったことである。偶然の出来事が、その人の将来を決めることがあるのだという点を読み解いてほしい。

三写真を撮る際に最も大事なことは、シャッターチャンスであろう。そこには、「光線と構図、撮影場所とレンズの無限の組み合わせ」（一一・12）が欠かせない。さらに「わたし」の目ざす「浮遊写真」の場合は、ジャンプのポーズがとくに重要となる。それが述べられている一文は、一一ページ12行目から始まる「以来、ジャンプの……」以外にない。

四まず、前者の「このスイッチ」は、「固定観念のスイッチ、自分を縛っている無意識のオキテ（掟）のスイッチ」をさし、後者の「このスイッチ」は、『写真を撮るには、技術を習得しなければならぬ』というオキテのスイッチ」をさすことを押さえる。次に、「写真をアカデミックに学んだことが」ない「わたし」は「技術に対してコンプレックスを抱いている」とある点に注目する。つまり、写真の技術を身につけていない「わたし」にとってオキテのスイッチは、自

信を喪失させ、制作のモチベーションを奪うおそれがあるものなのである。

五 さしている内容は直前に述べられているので容易であるが、要領よくまとめることがポイントである。それよりも、コンプレックスに対する「わたし」の独自の考え方をしつかり読み取ることが大事である。コンプレックスはその人の人格の一部、アイデンティティの一部、その人を形作る大切なエッセンスだと、どういうことなのか、脚注の「アイデンティティ」「エッセンス」の意味をきちんと押さえて理解すること。

六 すぐ後に具体的に述べられているので容易である。この人がいて、「わたしはジャンプのポーズと撮影結果だけに意識を集中することができ」（一三・一五）るのである。

七 「こういうもの」とは、直前の文に述べられている。形としては**四**と同じで、「OFF」にする理由は後の文で「こうしたオキテは外側から人を縛るのではなく内側から、わたしの場合はわたし自身がわたしを縛るという形で作用するので、意識してOFFにする必要がある」と述べられている。

八 現代美術作家として活動する「わたし」が初めにすることは、「自分を縛っている無意識のオキテのスイッチ、固定観念のスイッチをOFFにすること」だと繰り返し述べられている。なぜ「OFF」にするのかは、**四・七**で、すでに見てきた。「わたし」は作品の構想を練るとき、何ものにも縛られない発想を大事にしているのである。また、**五**で見てきたように、「わたし」はコンプレックスを、「その人の人格の一部、アイデンティティの一部、……その人を形作る大切なエッセンス」だと考えている。つまり、「コンプレックスと共存していく」とは、「自分の人格や個性を生かすことだ」と解釈できるだろう。こういう考えで作られた作品が、「わたし」のメッセージとして誰かの心に届けられる可能性が出てくるのかもしれないと、感じているので、正解はウである。